令和８年 10 月 30 日発行　　No. 051

沖縄県平和祈念資料館だより



大城友恵館長（左）から記念品を授与される橋野尚孝さん（左から2番目）

沖縄県平和祈念資料館　来館者900万人突破

沖縄県平和祈念資料館は、昭和 50 年に設立された旧資料館の老朽化に伴う移転新築により、平成 12 年に開館しました。開館から 26 年を経て、令和８年２月 25 日（水）、常設展示室の入館者数が 900 万人を超えました。記念すべき 900 万人目の入館者は、大阪府在住の橋野尚孝さん（32）。平和について学ぶために、県内在住の友人とともに来館されたそうです。記念品を受け取った橋野さんは大変驚いている様子でしたが、「戦後 80 年余が経ち、僕は子どももいて平和に暮らせています。今日は、改めて戦時中の人々の様子について振り返りたいと思い来館しました。」とコメントされていました。

当資料館は、開館以来、沖縄戦の歴史的体験等により培われた平和を希求する「沖縄のこころ」を国内外に発信するとともに、世界の恒久平和の実現に寄与するため、展示・企画事業や教育普及事業、資料収集・活用事業に取り組んでまいりました。これまで、国内外からお越しの来館者の皆様に、命と平和の尊さについて考える機会を提供できたことを誇りに思います。ご来館いただいた 900 万人の方々に、改めて感謝申し上げます。

戦後 81 年が経過し、戦争体験者が減少する中、沖縄戦の歴史的教訓の次世代への継承が課題となっています。そのような中、当資料館では、次代を担う若者の心に響く展示を目指し、展示リニューアルに取り組んでいるところです。

今後とも、恒久平和に寄与する平和の発信拠点として、多くの方々に訪れていただける資料館として発展できるよう、職員一丸となって取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

沖縄県平和祈念資料館ホームページで公開中



「戦世の記憶」戦争体験者による証言映像（70 名分）



「戦世からのあゆみ」戦争体験者による戦中・戦後の証言映像（30 名分）



＊「世替わりを生きて」戦後の証言映像（20 名分）

展示リニューアルについて（進捗状況）

1 経緯

沖縄県平和祈念資料館（本館）、八重山平和祈念館（分館）の展示リニューアルについては、令和６年度より検討を進めており、令和７年１月に基本構想、令和７年10月に基本計画を策定し、令和８年９月に基本設計を完了しました。令和９年度以降は、実施設計、製作・施工（計画）に取り組んでまいります。
※「基本構想」、「基本計画」、「基本設計」については沖縄県のホームページに掲載しています。

2 基本設計における主な展示更新内容

（1）沖縄県平和祈念資料館（本館）

第１展示室（沖縄戦への道）

・戦前の沖縄の風景・暮らしの様子などを紹介する等、若者等に親しみと関心を持たせる導入展示を新設
・沖縄戦に関する興味・関心を引き出し、自ら考えるきっかけを提供する「問いかけ」展示を設置

第２展示室（鉄の暴風）

・戦闘経緯の映像等を集中して鑑賞できるシアタースペースを設置し、展示動線と明確に区別化
・「住民犠牲の諸相」や「地域ごとの沖縄戦」の展示の充実

第３展示室（地獄の戦場）

・ガマの再現模型について、各シーンが意味する内容を補完する演出・説明を追加
・「沖縄戦とは何だったのか」コーナーを新設し、「平和の礎」に刻銘された戦没者数等の分析、戦後処理等の諸問題等を展示

第４展示室（証言）

・来館者がじっくりと証言を読むことができる環境の整備（証言本、映像機器の更新、検索性の向上等）
・1000 点を超える証言映像は、テーマごとに 20 点程度を選定。なお、全ての証言は１階で閲覧可能（無料）

第５展示室（太平洋の要石）

・平成 12 年の開館以降の米軍基地から派生する事件・事故に関する展示の追加
・復帰後の基地再編等の沖縄の状況を伝え、基地問題は沖縄だけの問題ではないことにも訴求

子ども・プロセス展示室、情報ライブラリー

・全面的に配置を見直すとともに、企画展示室は動線上に配置
・「平和の礎」の建設趣旨・基本理念や、刻銘者のライフヒストリーを紹介するコーナーを新設
・国内外の平和博物館及び関連施設に関する情報発信の充実
・書籍の充実や映像機器の更新、「米国統治下の証言」映像の追加

（2）八重山平和祈念館（分館）

・新たな展示を導入するため、展示室全体を再配置、展示ケースを更新
・戦争に至る経緯や、戦後復興の歩みに関する展示を新設
・証言（八重山地域関連）の活用や、「“沖縄のこころ”を理念として八重山から平和を発信する取組」に係る展示を設置

（3）本館・分館共通

・『沖縄県史』等の最新の調査・研究成果を踏まえるとともに、専門用語を多用しない簡潔で分かりやすい展示解説を導入
・基礎的な解説に加えて、更に学習したい来館者向けに、専門的な情報や解説を多層的に提供（PC モニター等の導入）
・子どもや車椅子利用者でも鑑賞しやすい環境の整備、資料の適切な保管や展示替えが容易な展示ケースを導入
・老朽化した展示パネル、映像機器等の設備を更新

沖縄戦の語り継ぎ手養成事業



戦後 81 年が過ぎ、沖縄戦体験者の高齢化により、直接戦争の体験を聴く機会が年々減少しています。また、現在活動している平和ガイドの担い手も高齢となり、後継者の育成が喫緊の課題となっています。

このような中、沖縄県平和祈念資料館では、令和 6 年度より、沖縄戦の体験や記憶を継承し、沖縄戦の実相を語り継ぐための平和ガイドや、平和講話・平和学習を担うことができる人材を育成するために「沖縄戦の語り継ぎ手養成講座」を開催しています。

【募集人数】40 名（沖縄本島会場 30 名、石垣島会場 10 名）

【講座日程】令和 8 年 8 月 22 日（土）～ 11 月 14 日（土）（40.5 時間）

【講座の特徴】 ☆「継承する力」を育成することを重視したプログラム☆

①知識・理解型講座・・・ 沖縄戦や戦後復興などの知識を専門家から学ぶ。
②体験・実習型講座・・・ フィールドワークを行い体感的に学ぶ。
③構築・発信型講座・・・ ガイドとしての技術、構成力、発信力などを学ぶ。

【フォローアップ研修】 令和 7 年度修了者に対して、学びの振り返りと実践の成果や課題を共有する。

沖 縄 会 場

月	日	曜日	回数	内 容
8	22	土	1	事前オリエンテーション、開校式
			2	沖縄の近代史・琉球王国時代～戦前の沖縄【知識・理解①】
8	29	土	3	沖縄本島及び離島地域における沖縄戦【知識・理解②】
			4	八重山戦争マラリア【知識・理解③】
9	12	土	5	沖縄の戦後復興、戦後～現在【知識・理解④】
			6	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習 A【構築・発信⑤】
9	19	土	7	沖縄島中部の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワーク A】※バスツアー
10	3	土	8	沖縄島南部の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワーク B】※バスツアー
10	10	土	9	レポート作成について、振り返り【構築・発信⑥】
			10	平和学習ファシリテートに関する講座及び実習【構築・発信⑦】
11	7	土	11	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習 B【構築・発信⑧】
			12	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑨】
11	14	土	13	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑩】
			14	閉校式、修了証書授与

石 垣 会 場

月	日	曜日	回数	内 容
8	22	土	1	事前オリエンテーション、開校式
			2	沖縄の近代史・琉球王国時代～戦前の沖縄【知識・理解①】
8	29	土	3	沖縄本島及び離島地域における沖縄戦【知識・理解②】
			4	八重山戦争マラリア【知識・理解③】
9	12	土	5	沖縄の戦後復興、戦後～現在【知識・理解④】
9	26	土	6	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習 A【構築・発信⑤】
			7	石垣島内の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワーク A】※バスツアー
10	4	日	8	西表島内の戦争関連遺跡及び施設【フィールドワーク B】※バスツアー
10	10	土	9	レポート作成について、振り返り【構築・発信⑥】
			10	平和学習ファシリテートに関する講座及び実習【構築・発信⑦】
11	7	土	11	沖縄戦体験者の語り継ぎ手に関する講座及び実習 B【構築・発信⑧】
			12	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑨】
11	14	土	13	平和講話・ガイド、語り継ぎの実践に関する講座及び実習【構築・発信⑩】
			14	閉校式、修了証書授与



本島会場と石垣会場をオンラインでつないだ開講式



本島中南部で行われたフィールドワーク

夏休み子ども・親子向け企画「親子で学ぶ沖縄戦」

8月15日（土）に「親子で学ぶ沖縄戦」と題し、夏休み期間を利用して親子で沖縄戦について学ぶイベントを開催しました。小学校1年生から中学生までの多くの児童・生徒が保護者と来館し、学芸員による講話を聞いたり、ワークシートをもって展示室を探索したりして、沖縄戦の実相について学びました。沖縄戦について親子で語り合う姿が多く見られました。

各会場の様子





【観覧者の感想より】

＊沖縄戦のたいへんさやつらさをもっともっと知らないといけないと思った。

＊むかし、ちいさな子がはたらかされていたことがわかりました。まだむずかしかったけど、少しずつわかっていきたい。

＊30 年以上前とはかなり違う講話のやり方、内容でとても良かったと感じています。娘は自由研究ノートに付箋紙や追記をして夏休みの宿題として提出すると張り切っています。共働き、サービス業なので土日祝日は出勤する事が多いのですが、機会が有ればどんどん体験・参加したい (させたい) です。本日は有難うございました。

＊今日のプログラムで、沖縄戦への理解がより一層深まりました。沖縄戦がこれほどひどくむごかったことが、展示室や講話を通してよくわかりました。これからも戦争や平和についてしっかり考えていきたいと思いました。

ギャラリー展「平和への思い」発信・交流・継承

令和８年５月８日（金）から令和９年３月 21 日（日）まで、当館２階ギャラリーにおいて、「平和への思い」発信・交流・継承事業を紹介する展示を行っています。

本事業は、令和元年度から、当館主催で実施している人材育成事業です。アジア諸国から７地域の学生が沖縄に集まり、各地域が経験した悲惨な戦争や事件について学びます。価値観の違いを認識しつつ、相互理解を深め、歴史の継承や平和について考え、意見を交わしてきました。本事業に参加した学生たちの学びを共有し、来館者の方々が新たな視点から平和を考える機会になることを願って、本展示を行いました。






企画展の様子

令和８年度　子ども･プロセス企画展・夏休み子ども向け企画

(1) 第１回子ども・プロセス企画展　「子どもたちが見た沖縄戦」



期間　令和８年６月11日（木）～８月31日（月）

場所　子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」

今回の企画展では、子どもの頃に沖縄戦を体験した方々に焦点を当て、戦争の中で、子どもたちがどのような体験をしたのかを紹介する展示を行いました。

多くの住民が戦闘に巻き込まれ犠牲となった沖縄戦の概要と実相をわかりやすく伝えるとともに、同世代の小中学生に関心を持ってもらえるよう、慰霊の日の前から夏休み期間に合わせて開催しました。



企画展の様子

当時の子どもたちが置かれた状況や沖縄戦での子どもたちの被害について、体験者の証言や沖縄戦の絵などを通して紹介しました。

来館した子どもたちが沖縄戦の理解を深め、戦争や平和について考える機会としました。

【観覧者アンケートより】

＊もう、せんそうがおきてほしくないから、けんかもない、ふつうの生活がいいし、むかしの子どもたちは、かわいそうだとおもいました。（県内：小学３年生）

＊私と同じくらいの子供たちもたくさん死んでしまったと思うし、家ぞくも亡くなって、１人でがんばって生きてきた人もいると思うと、自分だったらすごく辛いし、たえられなかったと思います。（県内：小学６年生）

(2) 夏休み子ども向け企画

①夏休み自由研究相談室　**期間**　令和８年７月18日（土）～８月31日（月）

②夏休み子ども教室ーきいて、みて、さわって、調べよう!ー　**期間**　令和８年７月26日（日）

場所　子ども・プロセス展示室「ひろば・ゆいまーる」　・　情報ライブラリー

夏休みの機会に、子どもたちに沖縄戦に関心を持ってもらい、情報ライブラリーを活用してもらうため、子ども向けの企画を行いました。

「夏休み自由研究相談室」では、沖縄戦について自由研究に取り組む子どもたちのために、写真や資料、参考図書などを活用できる学習コーナーを設置し、自由に相談できる場を設けました。

「夏休み子ども教室ーきいて、みて、さわって、調べよう!ー」では、ひろば･ゆいまーるで開催した企画展「子どもたちが見た沖縄戦」の解説を学芸員から聞き、当時の写真や体験者が描いた沖縄戦の絵を見たり、実物資料に触れたりしながら、調べ学習に取り組みました。これらの企画を通して、子どもたちが沖縄戦について自ら調べ、学びを深める機会としました。



【自由研究相談室】相談者　22名
【夏休み子ども教室】参加者　23名



展示の解説を聞く子どもたち



学習コーナーで調べる様子

沖縄県平和祈念資料館友の会　活動報告

沖縄県平和祈念資料館友の会では、資料館と連携しながら学習会やフィールドワークを行うとともに、県内学校及び地域における平和学習支援や平和講話、戦跡案内やポイントガイドなどの活動を行っています。

8月29日には沖縄県平和祈念資料館祈念ホールにて、定期総会と学習会が開催されました。学習会では、村上有慶氏（沖縄平和ネットワーク）と宮里千里氏（元那覇市役所職員）を講師として招き、沖縄戦の歴史の継承と戦後課題に向き合うため、これまでの平和ガイドの歴史と活動の歩みを振り返りました。県外の学生を含め県内からも 100 名を超える方々が参加し、貴重な学びの機会となりました。



総会であいさつをする上原美智子氏



県外からの修学旅行生へ那覇市職員を平和ガイドとして派遣し、沖縄の平和学習に尽力した宮里千里氏



長年にわたり沖縄の平和学習、戦跡案内を行い精力的に活動してきた村上有慶氏

平和学習フィールドワーク　（in 摩文仁）

「沖縄戦終焉の地　摩文仁の丘陵深部と大潮干潮時の海岸線を行く」

【日　時】令和8年4月19日（日）10：00～15：00
【講　師】仲村　真（友の会）
【参加者】80名

平和学習フィールドワーク　（in 首里）

「首里城周辺の埋没した戦跡壕を巡る」

【日　時】令和8年5月30日（土）10：00～13：30
【講　師】仲村　真（友の会）、養秀同窓会
【参加者】80名





令和8年度　第36回「児童・生徒の平和メッセージ」

入賞者一覧（優良賞以上）

県内の児童・生徒が戦争と平和について考え、その想いを図画、作文、詩によって発信する本事業は、沖縄県教育委員会との共催のもと、今年で 36 回目を迎えました。今回も総計 1,627 点の応募があり、平和を尊ぶ心を育み発信する貴重な取り組みとなっています。

入賞した 45 作品（最優秀賞･優秀賞）は、当館での展示を皮切りに、石垣市（八重山平和祈念館）、宮古島市（宮古島市立図書館）、名護市（名護市立中央図書館）、那覇市（沖縄県立図書館）の４会場で巡回展示を行いました。また８月 22 日には、当館祈念ホールにて表彰式も行われ、宮城嗣吉副知事より表彰状が授与されました（優秀賞以上の児童・生徒）。

入　選　者　一　覧（優良賞以上）

● 図画部門　入選者

小学校(低)の部（11名）

最優秀賞	樋　口　こなぎ	明石小２年
優秀賞	羽　地　咲　茉	与儀小２年
	比　嘉　英　汰	八島小１年
優良賞	知　念　咲　良	諸見小３年
	徳　里　穂乃花	沖縄カトリック小２年
	知　念　芽　生	天久小３年
	當　山　綾　大	八島小１年
	毛　呂　咲　奈	沖縄カトリック小２年
	與　座　諒　真	港川小３年
	毛　呂　優　奈	沖縄カトリック小２年
	平　良　竜　樹	明石小２年

小学校(高)の部（８名）

最優秀賞	新　城　佳　奈	城東小６年
優秀賞	知　念　　慶	天久小５年
	宮　良　和歌子	石垣小６年
優良賞	島　袋　日南彩	北玉小６年
	黒　岩　渚吹加	高良小６年
	長　瀬　結　菜	西原南小６年
	多和田　　翼	下地小５年
	鍛　　ひまり	沖縄カトリック小４年

中学校の部（９名）

最優秀賞	倉　八　　陵	西辺中３年
優秀賞	兼　本　向羽子	浦添中３年
	又　吉　香里奈	真和志中２年
優良賞	中　村　真　菜	名護中３年
	當　山　果　怜	名護中３年
	澤　紙　更　采	宮里中３年
	新　城　このり	具志頭中３年
	小橋川　桐　加	宮里中３年
	城　間　美　沙	寄宮中３年

高等学校の部（12名）

最優秀賞	真　鍋　朱　里	具志川高２年
優秀賞	仲栄真　芽　衣	普天間高１年
	鑓　溝　朱　里	開邦高２年
優良賞	比　嘉　真衣那	真和志高２年
	大　浦　　泰	南風原高３年
	佐久田　文　歌	真和志高１年
	知　念　海　来	開邦高２年
	上　原　麻　愛	開邦高１年
	前　門　美　桜	糸満高３年
	石　川　菜　乃	コザ高２年
	東　江　亜　珠	開邦高２年
	仲　間　美　結	小禄高３年

特別支援の部（８名）

最優秀賞	村　田　蒼　真	金城中１年
優秀賞	崎　原　加　衣	恩納小４年
	仲　順　徳　馬	高良小６年
優良賞	山　上　凛　咲	西原南小６年
	森　山　直　毅	美東小６年
	大　城　　晴	諸見小６年
	棚　原　叶　翔	諸見小３年
	黒　岩　柊　介	美東小６年

● 作文部門　入選者

小学校(低)の部（４名）

最優秀賞	與　座　諒　真	港川小３年
優秀賞	知　念　芽　生	天久小３年
	渡　辺　莉　代	沖縄カトリック小１年
優良賞	濵　田　志　帆	海星小３年

小学校(高)の部（９名）

最優秀賞	知　念　　慶	天久小５年
優秀賞	石　塚　雪　菜	具志頭小６年
	櫻　田　有　風	黒島小６年
優良賞	大　西　碧　人	海星小４年
	津　野　　藍	海星小４年
	下　地　奏　穂	海星小４年
	本　若　侑　真	海星小４年
	石　垣　吾　朗	海星小４年
	東　若　佳　祐	石垣小６年

中学校の部（10名）

最優秀賞	城　間　一歩輝	伊良波中１年
優秀賞	比　嘉　千　咲	開邦中３年
	大　城　壮　太	豊見城中１年
優良賞	仲　程　心　奏	豊見城中２年
	竹　村　衣　十	長嶺中２年
	黒　島　義　太	豊見城中３年
	野　村　駿　介	開邦中３年
	秋　島　梨　世	開邦中２年
	富　永　琢　朗	開邦中３年
	松　永　心　希	豊見城中２年

高等学校の部（10名）

最優秀賞	東恩納　沙　奈	那覇国際高３年
優秀賞	山　田　愛　莉	那覇国際高２年
	髙　良　きあら	那覇国際高３年
優良賞	加　戸　優　凪	開邦高１年
	田　仲　未　莉	那覇高３年
	松　本　帆　未	読谷高３年
	玉　城　　翠	那覇国際高１年
	世名城　藍　花	開邦高３年
	上　里　穂　花	向陽高１年
	大　城　希　愛	那覇高３年

特別支援の部（２名）

最優秀賞	立　山　楓　花	鏡が丘特別支援高等部１年
優秀賞	與　座　悠　真	港川小５年

●詩部門　入選者

小学校(低)の部（５名）

最優秀賞	與　座　諒　真	港川小３年
優秀賞	羽　地　望　衣	与儀小２年
	知　念　芽　生	天久小３年
	知　念　葉　奈	八島小１年
優良賞	樋　口　こなぎ	明石小２年

小学校(高)の部（５名）

最優秀賞	天　久　和　呼	与那原東小６年
優秀賞	宮　良　流　亜	上間小６年
	知　念　　慶	天久小５年
優良賞	仲　里　実　望	上間小６年
	知　念　名　沙	高良小６年

中学校の部（８名）

最優秀賞	亀　谷　琉　奈	豊崎中２年
優秀賞	知　念　由　依	昭和薬科大付属中１年
	金　城　華　陽	糸満中３年
優良賞	金　城　夏　鈴	糸満中３年
	野　底　禾　琳	豊見城中３年
	大　矢　和　代	開邦中３年
	當　間　七　海	豊見城中３年
	中　村　佳津希	豊崎中３年

高等学校の部（８名）

最優秀賞	松　本　帆　未	読谷高３年
優秀賞	諸喜田　明　佳	開邦高２年
	久　場　ありさ	那覇西高３年
優良賞	大　橋　一　葉	首里高３年
	柴　田　桜　良	那覇高３年
	髙宮城　歩　香	首里高３年
	宮　城　咲　希	首里高３年
	宮　城　杏　梨	那覇西高３年

特別支援の部（５名）

最優秀賞	與　座　悠　真	港川小５年
優秀賞	屋　我　さくら	名護特別支援中学部２年
	北　見　梗　輔	陽明高等支援１年
優良賞	玉　城　奏　和	名護特別支援中学部２年
	知　念　麗椰音	知念中３年

第36回「児童・生徒の平和メッセージ」

「児童・生徒の平和メッセージ」入賞作品（最優秀）の中から、図画と詩を紹介します。



「へいわの花たば」をどうぞ
明石小二年　樋口　ごなぎ



平和な世界
城東小六年　新城　佳奈



平和を求めてこの島に
西辺中三年　倉八　陵



繋ぐ平和
具志川高校二年　真鍋　朱里



平和への希望
金城中一年　村田　蒼真

第三十六回「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門　中学校の部　最優秀賞

令和8年度　沖縄全戦没者追悼式「平和の詩」朗読作品

「生きたいと願った証」

豊見城市立豊崎中学校　亀谷　琉奈

あの日の沖縄には
青い海も
優しい風もなかった
空は黒く
地面は揺れ
人々の叫び声が絶えなかった
爆撃の音が
心まで壊していく

まだ若かった曾祖母は
小さな体で必死に走った
血だらけの道を
倒れた人たちの横を
もう動かない人を見ながら
涙を流す暇もなく
ただ生きるために
そして
愛する夫の命を案じながら
「お願い　生きていて」
その想いだけを胸に
足がもつれても
呼吸が苦しくても
転びそうになっても
前へ前へと走った
しかし
その願いは
もう二度と届かなかった

その時のことを話す曾祖母の声は
今でもとても優しい
でも　私は知っている
その優しい声の奥に
今も消えない悲しみがあることを
細い足
しわしわの手
小さな背中
長い年月を生きてきた
その姿を見るたび
私は戦争の重さを感じる
そして
曾祖母の右足には
今も傷が残っている
それは
戦時中　自分で引っ掻いた傷
灰色の空の下
爆撃の音が鳴り響く

恐怖と不安でいっぱいになり
右手に握った石で
自分の右足を何度も何度も引っ掻く
気づけば手も足も血だらけだった

私が真実を知った時
胸が締めつけられた
どれほど怖かっただろう
どれほど苦しかっただろう
生きたい
死にたくない
その想いだけで
曾祖母は必死に生き延びた

戦争は人を傷つける
体だけじゃない
心まで壊してしまう
家族と笑う時間
友達と過ごす日々
「また明日ね」と言える幸せ
そんな当たり前を
全て奪ってしまう
でもそれは
当たり前なんかじゃない
血と涙の中を生き抜いた人たちが
命を繋いでくれたから
今の私たちがいる
もし曾祖母が
あの日　走っていなかったら
もし
あの日　命を落としていたら
私はここにいなかった

曾祖母の右足の傷は
ただの傷じゃない
「生きたい」と強く願った証
「戦争は二度としてはいけない」
という叫び
私はその想いを
これから先も伝えていく
もう誰にも
血だらけの道を
走ってほしくないから
もう誰にも
愛する人の命が奪われることに

怯えてほしくないから
もう二度と
沖縄の空を戦争で
染めてはいけないから

平和は当たり前じゃない
たくさんの人の涙と苦しみと
「生きたい」という願いの上にある
だから私は忘れない
沖縄戦で苦しんだ人たちを
愛する人を守ろうとした想いを
泣きながら生き抜いた人たちを
そして
曾祖母の右足の傷を
「生きたい」と願った証の傷を
平和な未来へと繋いでいくために



編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所　〒901-0333　沖縄県糸満市摩文仁614番地の1　TEL　098-997-3844　FAX　098-997-3947
URL　http://www.peace-museum.okinawa.jp　Email　webmaster@peace-museum.okinawa.jp